

緑化だより

No.48 平成22年3月号



キンメネコヤナギ 平成20年3月25日撮影

- 虹色きのこ
- 植物と歴史
- 花だより

- 研修会・イベント報告
- 研修会・イベント紹介
- お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



虹色きのこ

(10)黄色 その2

七色の虹のようにきのこも美しい色合いのものがあります。今月は再び黄色。

アキヤマタケ(秋山茸)

秋に発生する黄色の美しい小型のきのこです。ロウ細工のような雰囲気があります。もろくて壊れやすいきのこです。傘には多少粘性があり周辺に条線があります。柄には粘性がありませんが、本種に酷似したツキミタケは柄に粘性があります。可食です。

キタマゴタケ(黄卵茸)

真っ赤な色のタマゴタケと形態的には全く同じですが、色が黄色の美しいきのこです。食用ですが、同様な色の猛毒なタマゴタケモドキがあるので注意が必要です。毒のタマゴタケモドキには傘の周辺に溝線がありませんが、食用のキタマゴタケにははっきりした溝線があります。

コガネカレバタケ(黄金枯葉茸)

野生きのこが少ない5月ごろ、鮮やかなレモン色のきのこには、はっとするくらいの美しさがあります。傘もひだも柄もレモン色です。湿っている時は傘の周辺に条線があります。落葉を分解するきのこです。食用。



アキヤマタケ



キタマゴタケ



コガネカレバタケ

植物と歴史

『植物と炭素固定のからくり』

植物が成長するのは、光合成によるのですが、その際大気中より、二酸化炭素を吸収し、酸素を排出することになります。これは、植物の葉に含まれているクロロフィルの働きによるものです。

植物の葉では、太陽光エネルギーを用いて根から送られてくる窒素、リン、カリウム、カルシウムなどの無機物(養分)と水分を使い、大気中から吸収した二酸化炭素を使って炭水化物を作り、糖類などの有機物を合成して樹体内へ養分を送り返し固定した炭素を蓄積するという成長のための営みが続けられています。その関係を(a=二酸化炭素排出量) (b=炭素固定量)の条件で表すと、

(a)植物も呼吸をします。この過程では、酸素を吸収し、二酸化炭素を大気中に排出しています。

(b)植物(樹木)が成長することは、光合成のため空中より吸収する二酸化炭素の量が、呼吸により排出する二酸化炭素の量より多いということです。この過程で炭素の固定が行われます。

すなわち、(a)-(b)>0 なら植物は成長している。

(a)-(b)=0 なら植物の成長は停止している。

(a)-(b)<0 なら植物は枯死する。

ということになり、植物の成長とともに常に炭素固定が行われていることがわかります。

さて、次回からは現存植物についてお話します。

今回は、「ブナ」です。

花だより

コブシ・タムシバ モクレン科モクレン属

春花の代表と言えば『桜:ソメイヨシノ』と言えますが、コブシも春を象徴する花ということをご存知だと思います。

コブシは春の季語にもなっている他、「北国の春」(千昌夫)の中では、“こぶし咲く あの丘 北国の ああ 北国の春”と歌われています。古くから、コブシの開花を基準に農作業を開始したり、花の向きでその年が豊作かどうかを占ったりと、人々の生活に密着した木でした。別名、田打ち桜・種まき桜と言われている地域もあります。

公園や街路樹などに植栽され身近な樹木の一つですが、東日本から東北地方に多く自生し、県内の自生は、世羅地方と東城・芸北の山地等で稀に分布している程度です。春の山で同じように白い花を咲かせているのは『タムシバ』になり、緑化センター周辺でも多く見られます。

コブシは花の下に 1 枚の小さい葉がありますが、タムシバにはその葉があり



タムシバの葉

りません。葉が展開して、葉を見比べると両種の違いは明らかです。タムシバは、別名カムシバ・ニオイコブシとも言われ、花に芳香があります。また、葉を揉むと強い香りがするほか、葉を噛むとキシリトールのような甘味があります。噛む柴が転訛して、タムシバになったと言われています。タムシバを見つけて葉を一度噛んでみて下さい。



コブシの花(花の下に 1 枚の葉がある)



タムシバの花

研修会・イベント報告

2月21日(日) 『山野草寄植教室』

春が到来したかのような暖かさが感じられる中、35名が参加して、山野草寄植教室が行われました。研修会の前半は、用土や肥料の選び方・植替え・灌水・病虫害の説明とセツブンソウ・ユキワリイチゲの育て方の説明がありました。講師の経験に基づく貴重な話に参加者は静かに聞き入り、熱心にメモする人が多く見られました。

説明の後、いよいよ寄植の実技講習が始まるとめいめいが一心に自分の鉢に山野草を植えつけ始め、いろいろな個性ある寄植が出来上がっていました。

今回用いた山野草は、講師が育てられたセツブンソウ・ユキワリイチゲ・ハナカンザシを使用し、出来上がった寄植は、めいめい大事に持ち帰っていました。「来年も是非、参加したい」という意見が多く寄せられた研修会でした。来年は、セツブンソウ・ユキワリソウを使用する予定です。植物栽培や山野草に興味のある方はぜひご参加下さい。



セツブンソウ・ユキワリイチゲ・ハナカンザシの寄植

研修会・イベント紹介

- 3月6日(土) 『早春のバードウォッチング』 9:00～12:00 管理事務所前集合 (双眼鏡持参)
冬鳥を中心に緑化センター内にて野鳥観察会を行います。今回は、何種類の冬鳥が観察できるでしょうか。因みに昨年は、21種類の野鳥が確認されました。
講師:日本鳥類保護連盟会員 吉見 良一 先生
- 3月7日(日) 『接ぎ木や挿し木を学ぼう』 10:00～12:00 学習室集合 材料費¥400
接ぎ木や挿し木について学習した後、桜の接ぎ木を実際に行います。接ぎ木のコツを覚えて自分で庭木を殖やしてみませんか。質問も受付ています。
講師:樹木医 溝口 幸平太 先生
- 3月12日(金) 『3月の自然探勝』 10:00～12:00 管理事務所前集合
園内の散策路を歩きながら、植物観察を行います。早春に咲く花を観察して、春を感じてみませんか。
講師:広島大学名誉教授 石橋 昇 先生
- 3月24日(水) 『早春の樹木を見て歩こう』 10:00～12:00 管理事務所前集合
早春に咲く花を中心に植物観察をしながら、園内を散策します。この時期は、ミツマタ・アオモジ・サンシュユ・ダンコウバイ・ハナノキなどの花が見られると思います。
講師:植物研究家 清藤 徹 先生

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

◎ 展示会のお知らせ 展示場所:レストハウス

- 緑化センターの花写真展 開催中～3月22日(祝・月)迄
緑化センター内で撮影した、様々な花の写真を展示しております。来園されましたら開花状況写真を確認され、実際の花をご覧頂けたらと思います。
- 緑化センターのサクラ写真展 3月25日(木)～4月25日(日)
緑化センター内で撮影した、様々なサクラの写真を展示いたします。
- 緑化センターの野鳥の巣展 3月6日(土)～3月28日(日)
緑化センター内で野鳥が実際に作って利用した巣を展示します。巣は、野鳥が小枝やコケを上手に利用して丁寧に作っていますので、野鳥の巣作りの技をご覧下さい。

◎ 臨時開園のお知らせ

4,5月は、毎日開園しますので、**休園日はありません**。緑化センターでお花見をされては如何でしょうか。昨年のソメイヨシノの開花は、3/25でした。気候にもよりますが、概ね3月末～4月上旬に開花しています。ホームページ上でソメイヨシノの開花情報を更新するほか、電話でも開花状況をお知らせいたしますので、管理事務所までお問い合わせ下さい。

◎ まったけ林管理ボランティア募集

まったく発生を目指したマツ林の手入れを行っていくボランティアを募集します。緑化センター内のアカマツ林の手入れを毎月行い、マツタケ発生に適した環境を作る作業を行う予定です。ボランティアに参加していただける方は、管理事務所までご連絡下さい。「きのこ栽培ボランティア」として登録されている方は、新たな申し込みは必要ありません。

3月25日(木)の10時から初回の活動を行う予定です。